

多様な教育機会確保法（仮称）制定を目指す

フリースクール等院内集会

日 時：2015年6月16日（火）16:00～17:00
会 場：衆議院第一議員会館 1階多目的ホール
主 催：NPO 法人フリースクール全国ネットワーク
　　　　多様な学び保障法を実現する会
共 催：超党派フリースクール等議員連盟

目 次

目次	1
ごあいさつ	2
多様な教育機会確保法（仮称）資料	3
これまでのとりくみ	7
当事者の体験と想い	11
色々な学びの場の紹介	19
多様な教育機会確保法（仮称）に期待すること	23

ごあいさつ

NPO 法人フリースクール全国ネットワーク 代表理事
多様な学び保障法を実現する会 共同代表
奥地圭子

本日は、議員の皆様、子ども・若者やフリースクール関係者市民の皆様、お忙しい中を本集会にお集まりいただき、まことに有難うございました。とりわけ、超党派フリースクール等議員連盟におかれましては、諸課題山積の中、理念法としての「多様な教育機会確保法（仮称）」をおまとめいただき、5月27日、夜間中学校等義務教育拡充議員連盟との合同総会において馳座長試案としてお示しいただき、大変感謝しております。

憲法では、小中学校教育は、義務教育としての普通教育として保障されており、無償として位置づけられておりますが、実態は年間約12万人の不登校児童・生徒が存在し、様々な形で学び成長しております。その、学校以外の様々な形を国として支援し、また正規に社会に通用できるようにしようという今回の動きは、実態に合わせて、子どもが持っている教育を受ける権利、学ぶ権利を保障する大きな一歩であり、学校教育法の一条校以外の多様な学びに光を当てていくものです。

ふりかえれば、フリースクールとしては、誕生した30年前から、学校以外の場への理解と支援を求め活動してきた歴史があります。フリースクール全国ネットが誕生したその時から15年、多様法を実現する会結成からも3年、やっと、根拠になる法律ができるということは、万感胸に迫るものがあります。

本日は、一刻も早く子どもの幸せを願う気持ちから、「多様な教育機会確保法（仮称）」の今国会での成立を期して、この集会を開催いたします。議員の皆様の一層のご理解とご奮闘をお願いし、法案成立に向けてのご尽力を期待しております。

2015年6月16日

「多様な教育機会確保法（仮称）案」【概要】[座長試案] (義務教育の段階における普通教育の多様な機会の確保に関する法律案（仮称）)

○目的及び基本理念

〔目的〕

この法律は、様々な事情により義務教育諸学校で普通教育を十分に受けていない子供や学齢を超えた後に義務教育諸学校への就学を希望する者（当該学校での教育を十分に受けずに中学校等を卒業した者を含む）がいることを踏まえ、多様な教育機会確保のための施策を総合的に推進することを目的とする。

〔基本理念〕

多様な教育機会確保のための施策は、教育基本法の精神に則り、様々な事情により義務教育諸学校で普通教育を十分に受けない子供や学齢超過後に就学を希望する者が、年齢又は国籍にかかわらず、義務教育の段階における普通教育を受ける機会を与えられるようにすることを旨として行われなければならない。

○責務

〔国の責務〕

国は、基本理念にのっとり、多様な教育機会確保のための施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

〔地方公共団体の責務〕

地方公共団体は、基本理念及び基本方針に則り、国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

○基本方針

文部科学大臣は、地方公共団体、民間の団体その他の関係者の意見を聴いた上で、基本方針を定めなければならない。

○学校以外の場で学習する子供の教育の機会の確保

- ・保護者は、子供の状況等を考慮し、個別学習計画を作成して市町村教育委員会の認定を受けたときは、学校に就学させないで、子供に教育を受けさせることができる。
- ・市町村教育委員会は、訪問等の方法により子供に対して学習支援を行う。
- ・当該保護者は、就学義務を履行したものとみなす。

○学齢超過した後に就学を希望する者の教育の機会の確保

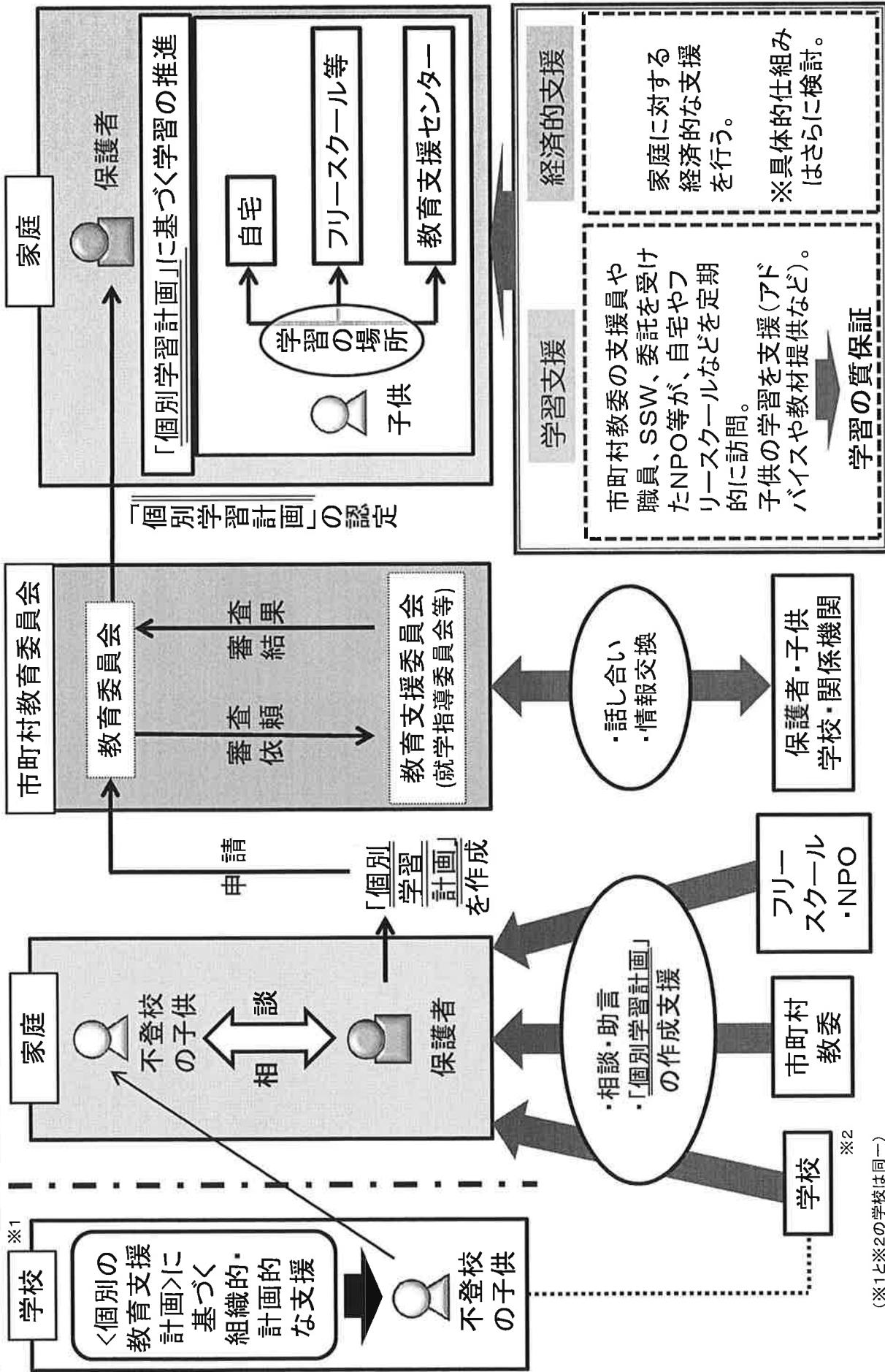
- ・都道府県教育委員会及び市町村教育委員会は、適切な役割分担の下、学齢超過者が希望した場合、義務教育諸学校への就学の機会その他の学習機会が確保されるよう必要な措置を講じる。
- ・都道府県教育委員会と都道府県内すべての市町村教育委員会との間で役割分担を決定するために必要な協議を行うため、都道府県ごとに協議会を置く。
- ・国は、学齢超過者の就学の機会その他の学習機会の確保のため、地方公共団体の行う施策を支援するとともに、広報その他の啓発活動を行う。
- ・国は、義務教育諸学校等における学齢超過者の学習活動の充実に資する調査研究を行うとともに、その成果を普及する。

○財政上の措置等

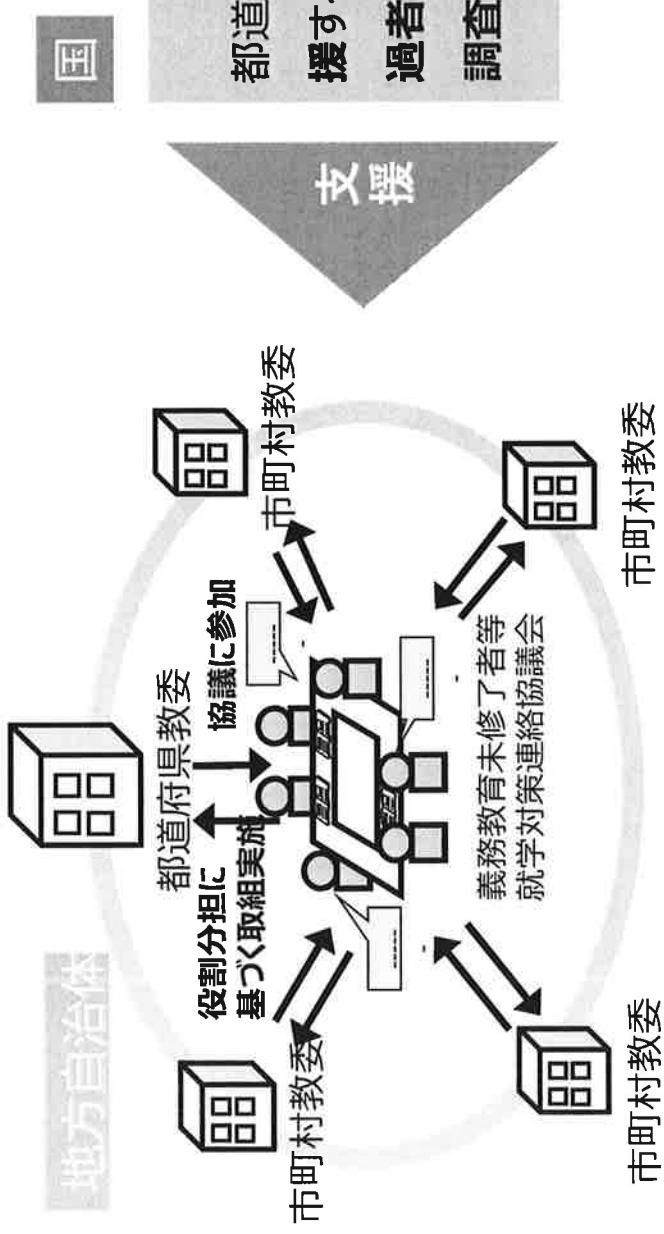
- ・国及び地方公共団体は、多様な教育機会確保のための施策を推進するために必要な財政上の措置その他の必要な措置を講じるよう努めるものとする。

座長試案

学校以外の場(フリースクールや自宅など)で学習する子供の教育の機会の確保(案)



学齢超過した後に就学を希望する者の教育の機会の確保(案)



都道府県・市町村教委は、協議により規約を定めて「義務教育未修了者等就学策連絡協議会」(仮称)を設置して役割分担を協議・決定し、具体的な取組を実施。

(役割分担イメージ)

- ・就学希望者のニーズの把握方法の検討
- ・積極的な広報活動による潜在的ニーズの掘り起こし
- ・就学希望者が多いとみられる自治体による夜間中学の開設

- ・夜間中学開設に当たっての都道府県の支援
- ・他市町村の生徒を夜間中学に受け入れる場合の経費分担の仕組みの構築
- ・自主夜間中学等に対する支援など

平成 27 年 6 月 9 日現在

超党派フリースクール等議員連盟・夜間中学等義務教育拡充議員連盟

立法チーム

顧 問	河村 建夫（衆・自）	富田 茂之（衆・公）
座 長	馳 浩（衆・自）	
座長代理	笠 浩史（衆・民）	
幹事長	義家 弘介（衆・自）	
幹 事	萩生田 光一（衆・自）	石井 浩郎（参・自）
	二之湯 武史（参・自）	水落 敏栄（参・自）
	浮島 智子（衆・公）	秋野 公造（参・公）
	郡 和子（衆・民）	神本 美恵子（参・民）
	井出 庸生（衆・維）	牧 義夫（衆・維）
	柴田 巧（参・維）	
	畠野 君枝（衆・共）	田村 智子（参・共）
	吉川 元（衆・社）	
事務局長	林 久美子（参・民）	

* 敬称略・順不同

これまでのとりくみ

「フリースクール全国ネットワーク」設立（2001年2月3日）

全国各地のフリースクールなどを結ぶネットワークとして、正会員団体37団体、支援会員（個人・団体）46団体名の合計83団体名にて設立。ネットワークづくりと情報発信、交流イベント、人材育成、国際交流、調査研究、そして不登校・フリースクール等をめぐる政策提言などへの取り組みをスタート。

国会議員との対話集会「私たちの政策提言」を実施（2001年8月6日）

不登校の子どもたち、フリースクールを取り巻く状況を変え、安心して学校外育つことを選べる社会の実現を目指し、自民、公明、民主、共産、社民の各党より1人ずつ、5名の国会議員を迎える対話集会を実施。200名を超える参加者が集い、子ども2名、保護者2名、フリースクール関係者3名が指定発言、会場から多くの声があがった。

『フリースクール白書』完成（2004年3月）

フリースクール等団体410団体、フリースクール等に通う子ども1230名、保護者1230名、スタッフ820名に向けたアンケート調査を実施し「フリースクール白書」を作成。同年5月の「フリースクール白書フォーラム」には国会議員、文部科学省生涯学習局担当者などを含む100名が参加。

「フリースクール環境整備推進議員連盟」発足（2008年5月）

フリースクール全国ネットワークの働きかけにより、「フリースクール環境整備推進議員連盟（小宮山洋子会長、馳浩幹事長、寺田学事務局長）」が発足。小・中学校に在籍していない（15歳以上の）フリースクールに通う子どもたちへの通学定期の適用を求める運動の中で、超党派での議連が設立されました。

同年9月には高校に在籍する子どもがフリースクール等に通う際「実習用通学定期」が適用できるようになり、また在籍高校への出席扱いも実現しました。

『フリースクールからの政策提言』を発表（2009年1月12日）

NPO法人フリースクール全国ネットワーク（以下、フリネット）が、学校外の学びの場を認める新法制定や、学校復帰を前提とする不登校政策の見直しなどを盛り込んだ政策提言を作成、第1回JDEC（日本フリースクール大会）で採択し発表（参加者120名）。

新法骨子案作りに着手（2009年1月～）

JDECにて採択された政策提言をフリースクール環境整備推進議員連盟や文科省に提出。馳浩議連幹事長より、法案を考え議連に提案してはどうかとのアドバイスを得て、法案骨子づくりに着手。

新法骨子案（第一案）を発表（2010年1月11日）

フリネット内に「新法研究会」を設置、（仮称）オルタナティブ教育法骨子案（第一案）を第2回JDECで発表。不登校の親の会、シュタイナー、サドベリー、ブラジル学校などオルタナティブ教育関係者、有識者、議員などフリースクール以外にも議論を広げる。

「実現する会」設立総会の開催（2012年7月14日）

230名を超える一般来場者を得て「実現する会」を設立（共同代表：奥地圭子、汐見稔幸、喜多明人）。運営会議の設置、全国各地での学習会開催、議員への働きかけ等の活動方針を定める。

「多様な学び保障法を実現する会」へ改称（2012年10月8日）

法案名称を「多様な学び保障法（子どもの多様な学びの機会を保障する法律）」に改称。普通教育学校外における多様な場において、一人ひとりの子どもの学習権を普通教育として軸とした法案とを目的とするよう明確にする。

各地で学習会の開催（2012年10月～）

東京都内のほか長野、札幌、長崎、大阪、埼玉、香川などでも学習会を開催。学校外での多様な学びの支援のあり方などについて、検討を重ねる。（学習会開催回数8回、参加人数合計約200名）

いじめ防止法の立法に際して（2013年2～6月）

いじめ防止対策推進法の立法に際し、学校外での学びが選べるよう盛り込むよう議員立法チームに要請。附則に「学校を欠席することを余儀なくされている児童等が適切な支援を受けつつ学習することができるよう、学習に対する支援の在り方についての検討を行うものとする」と入る。

第1回「オルタナティブな学び実践研究交流集会」開催（2014年2月）

東京シユーレ葛飾中学校を会場に、オランダの教育紹介で著名なリヒテルズ直子さんの講演やオルタナティブ教育を実践する学校や団体が実践を発表し交流し合う。（参加者174名）

超党派フリースクール等議員連盟 発足（2014年6月3日）

働きかけの結果「超党派フリースクール等議員連盟」（河村建夫会長、馳浩幹事長、林久美子事務局長、議員50名超）設立。

政府がフリースクール等への支援検討を開始（2014年7月～）

教育再生実行会議第5次提言「不登校の児童生徒が学んでいるフリースクールなどの学校外の教育機会の現状を踏まえ、その位置付けについて、就学義務や公費負担の在り方を含め検討する」、安倍総理「東京シユーレ」視察、下村文科大臣「フリースペースえん」視察、文科省フォーラム開催、有識者会議が2015年1月に発足し検討に入る。

第2回「オルタナティブな学び実践研究交流集会」開催（2015年2月）

大阪府立大学を会場に第2回の実践研究交流を開催。関西のオルタナティブ教育が集つて企画準備。基調講演は清水眞砂子さん、多様な学びについてのパネルトーク、若手研究者による多様な学びの研究発表などをおこなう。（参加者延べ416名）

超党派フリースクール等議員連盟第2回総会、立法を宣言（2015年2月18日）

第2回議連総会は、文科大臣も参列し、立法をめざすことを宣言して閉会。

議員連盟が「多様な教育機会確保法（仮称）」の立法を決定（2015年5月27日）

超党派フリースクール等議連は、夜間中学等義務教育拡充議連と合同総会を開催し、「義務教育の段階における普通教育の多様な機会の確保に関する法律案（仮称）」試案を採択し立法チームを設置。2015年度通常国会会期中の成立を目指すことを決める。

多様な教育機会確保法（仮称）制定を目指すフリースクール等院内集会開催

（2015年6月16日）

フリネット、多様な学び保障法を実現する会の共同、超党派フリースクール等議員連盟の協力により院内集会を開催。立法の推進を訴える。

当事者の体験と想い

■苅谷和幸（神奈川県・24歳）

私は現在24歳で、東京農業大学へ通う4年生です。私は中学1年の9月に不登校になり、中学3年の春休みまで家でひきこもりました。その後フリースクール東京シューレに7年間所属し、高卒認定試験をうけ、21歳で大学に進学しました。

私が不登校になったきっかけは夏休みの宿題が終わらなかつたことです。え？そんなこと？と思われるかもしれません。夏休み明け大量の宿題をやり残していた私は、少し休んで宿題を仕上げようと思い、学校を休みました。そのまま一週間学校を休んでしまいましたので、さすがにこれはまずいと思い学校へ行きました。授業は1週間分進んでいます。授業を聞いている時、どうしようもなく「もうだめだ」と思いました。次の日から学校へ行けなくなりました。

それから2年間は家で引きこもることになります。親からしたらなんとしても学校にいってほしいですから、お願いだから学校に行ってくれと言われます。ですが行けないんです。実際に体にも症状が現れます。行こうとするとおなかが痛くなり、どうしても無理なんです。一度車に乗せられて、学校の校門の前でおろされたのですが、中にはどうしても入れず歩いて帰りました。

私も親もお互いにストレスがたまります。母親に本を投げるとゲーム機が投げ返されてくるようなケンカをしていました。お前さえ学校に行ってくれればいいんだと言われました。ですが、行けないものは行けないですから、辛かったです。その頃、家に私の居場所はありませんでした。私は弟にカッターナイフを向けるようなこともしていました。

少し状況が変わります。1年半も引きこもっていると親も疲れてくるんです。あまり学校へ行けと言われなくなりました。そうすると不思議な事にこちらにも余裕が出てくるんですね。安心感みたいなものでしょうか。それまで家から1歩も出なかったのに、プールにちょっと行ってみたりするようになりました。そんなときに母からこんな場所があるよと、フリースクール東京シューレのことを聞きます。1回行ってみてダメならやめよう、そう思っていたのですが、自分に合っていたのか6年間通うことになります。

フリースクールに行ってまず驚いたのが、皆明るいんですよ。もっと不登校って暗いイメージがありましたから。ある人はマンガをよんでる、ある人はトランプをしてる、ある人はギターを弾いてる。最初私はマンガを読んでるだけでしたが、楽しそうな雰囲気でここならいいなと思いました。同じ鉄道が趣味の友達ができてますますそこへ行くのが楽し

くなりました。

東京シユーレでは週1回ミーティングを行い、子供たちが来月の予定などを話し合って決めます。ギターがやりたいからギター講座を作つてほしいとか、来月のスポーツはフットサルがいいとか、どんどん決めていきます。

大きなイベントもあります。フリースクールフェスティバルという文化祭みたいなものを作っている時、友達が音楽室をアマゾンにしたいって言い出したんですね。音楽室の天井に全部深緑色の布をはって、うっそうとした感じにしていました。心にパワーを持つてゐる人が結構いるんです。

私は少し勉強がしたくなつたので、スタッフに相談して高卒認定対策講座を作つてもらいました。そのかいあって、17歳のときに高卒認定試験に合格しました。

高卒認定試験には合格しましたが、将来自分がやりたいことは全然分かりませんでした。でも友達はいろいろな進路を自分で決めていきました。

20歳で通信制の高校へ行く人、専門学校へ行く人、大学へ行く人、バイトを始める人、中には15歳でサラリーマンになる人と様々でした。そんな時期に、私は歩き旅をしました。

18歳の12月、神奈川県の江の島から、新潟県の直江津まで2週間かけて歩きました。

12月でしたから長野は氷点下でしたし、途中から雪が降ってきました。長靴を買って、腰までつもっている歩道の雪を横目に歩きます。とても景色の良いところもありますが、1日10時間歩いていると、暇になりました。歩きながら自分のしたい事を考えました。

もし勉強するなら食のことがしりたい、それじゃ広すぎるから、食を作る側のことがしりたい、それは農業だろう。農業のこと知るなら農学部のある大学へいこう。

400km歩き終えて、新潟の海を見ているとき、そう心に決めていました。

旅から帰った私は翌月から予備校に通い、2年勉強したのち東京農業大学の農学部へ合格し今にいたります。

大学では、サークルの会計をしたり、所属する植物病理学研究室の副幹事をしながら、卒論と就活にまい進しています。いずれは農業にかかわる仕事につきたいと思っています。

歩き旅の方は趣味になりまして、去年横浜から福岡までの1100キロを1か月かけて歩いたりしています。

今は毎日忙しくすごしておりますが、前は家から1歩も出ない引きこもりの時期がありました。

私にとって必要だったのは、安心して家にいれる時間と、フリースクールにいながら安心して通える事でした。そのことが今の自分につながっています。

学校へ通う人とはだいぶ違う道になりましたが、これはこれで良かったなと思います。

当事者としてはフリースクールが社会に認められて、また多様な育ち方が受け入れられるようになれば良いなと思います。

■中島瑞季（東京都・19歳）

私は幼稚園生のころ、泣いては注意されてばかりいました。

子供の私にとって泣くことは助けを求める手段でしたが、先生は子供のことを集団でしか見てくれず、どんな理由があっても集団を乱す子供が注意の対象となっていました。

そのため、助けを求める手段である「泣く」こともできず、理不尽なことがあってもただひたすら耐えて、集団を乱す「失敗」もできない幼稚園生活を送っていました。

そんな経験から、小学校でも「ちゃんとしなければ」という不安と焦りの中で学校に通っていましたが、小学4年生の春休み明けに限界をむかえ、ついに不登校になりました。

学校に行けなくなつてからは、「学校に行かない事は良くないこと」という価値観が当然のように身についていたため、自分の事を責め、罪悪感を感じました。「学校に行っていないのに遊んでいいのかな」という思いから、近所の友達と遊ぶことをやめ、家で一人で過ごすようになりました。

最初のうちは勉強が遅れたらいけないと思い、学校から出された宿題をやつたり、母から勧められた通信教育をやっていましたが、結局長くは続かず、余計に自己否定をするようになっていきました。

その後ホームシユーレに入り、不登校に対する罪悪感や劣等感を乗り越え、自分らしくやりたいことを追求している先輩方の姿を見ることで、いつしか「自分もこう生きていきたい」という憧れを抱くようになりました。

さまざまな葛藤の末、ホームシユーレの発行する会員誌『ばるへん』の編集部員として活動するようになってからは、『ばる?ん』の特集作りのために、どういった内容を読者が求めているのか、相手の立場になって考えてきました。

そうするなかで多くの失敗をしながらも、正しい言葉を覚え、Wordの使い方を学び、デザインする力を得、物事を深く追求し、それを文字に起こす能力が身についたと思っています。

特に、特集を決める会議で、他の編集部員とディスカッションすることにより、相手の考えを受け止めつつ自分の意見を正確に伝える力がついたことは、とても自信になりました。

振り返ってみれば、それが私の『ホームエデュケーション』だったなと思います。

今後も、型として作られた『ホームエデュケーション』ではなく、型のない自由な学びができる『ホームエデュケーション』が広まることを願っています。

■井上聰志（東京都・16歳）

自分は、小学校2年生時に、親と離れるのが嫌になり不登校になりました。不登校になってからは、周りと違うことをしていたので、とにかく後ろめたかったです。でも、小学4年の終わりごろからホームシユーレの掛川サロンに行き始め、知り合いも増え、少しずつ気持ちも明るく過ごせるようになりました。

こうしてホームエデュケーションに切り替えてから、平日にいろんなところ（公園や動物のいる施設、博物館など）に出かけ、それらは結果とても良い経験になっていたかなと思っています。他にも料理を作ったり、卓球をすごい練習したり、カードゲームではカードの効果や強い組み合わせなどを調べ、それらにどうやって勝とうか沢山研究したりしました。旅行（那智勝浦、伊賀上野、伊勢、姫路他）もいっぱい行き、何かを勉強しに行ったわけではないですが、充実した時間になりました。

将来、自立をするのが目標ですが、そのために一体どんな生活にしたいか、今はまだ決まっていないので、それを探す意味でも今年から通信制の高校に入ることにしました。

（親から）

子が不登校になり、どこにも通わずホームエデュケーションとなったことで、我が家はなにものにも代えがたい家族のつながりができたと思っています。不登校前は、親は仕事が優先で、子ども、家庭は二の次でした。もし不登校にならなかつたら親がうつになったり、体を壊したりしていたでしょう。人生においてなにが大切かを見直すきっかけとなり、子どもと共に貴重な時間を共有してきました。ホームエデュケーションは子どもの関心にダイレクトに寄り添うことができ、実は最もぜいたくな教育法じゃないかと感じております。

ただ現在の日本ではマイナーすぎて、誇りを持って生きるのが難しく、かつ資金的にもサポートされていないため親は厳しい場面があります。学校教育にはその良さがありますが、ホームエデュケーションにもそれとは違う良さがあると感じており、多くは学校に行くとしても「ああ、あなたはホームエデュケーションなのね」と普通にとらえられると、子どもはもっと自信を持ってのびていけるのではないかと思う。

■荒木秀子（千葉県・フリースクールに通う子どもの親）

私の娘は学習困難があり、中学1年秋から不登校になりました。学習困難といつても知的な遅れはないのですが、読み書きが大変でした。知的な遅れがないがゆえに、お友達と自分は違う、努力をしても報われないという思いに悩まされてきました。小学校では先生方から理解を得ることができ、自尊心を保つことができましたが、中学校はそうではありませんでした。娘の困難性や限界、これまで努力してきたことを伝え、ご協力を仰いだのですが、残念ながら願いかねわず、娘はだんだん自己嫌悪がひどくなり「死んでしまいたい」と泣くこともありました。娘は本来大変朗らかで、傍にいる人の心まで温かくしてくれる子です。それなのに、学校に行くたびに輝きが失せていく様子を見るにつけ、親として悲しく思っておりましたので、「学校に行かなくていいよ」と私は娘に言いました。しかし、娘は世の中に置いて行かれまいと、友達に自分の弱みを隠しながら学校に通いました。そしてとうとう朝起きられなくなり不登校になったのです。中学校というのは非常に管理的な指導で成り立っており、その枠に合わないものは置いて行かれます。「一人ひとりの個性を大切にしよう」というスローガンとは裏腹に、みんなと同じでないとダメなのです。

その後、幸い娘は東京シューレに出会い、自信を取り戻し生き生きと学習することができるようになりました。そして高等部になってから初めてのアルバイトに挑戦しようとしたときです。面接時、履歴書を見ながら「シューレって何だい？」と聞かれ「不登校の子ども達の居場所であり、学びの場所です」と答えると「不登校？それはあんたが弱いからじゃないのか。自分の弱さから逃げているだけだ」と延々と否定され傷ついて帰ってきたことがあります。不登校に対する偏見はあちこちにはびこっているのだと再確認させられた出来事でした。そこから1年、社会に出ることの恐怖感がぬぐえず、アルバイトへの挑戦は休止していましたが、シューレの活動を熱心にしていくことで、ようやく勇気がわき、今アルバイトを体験しています。

子どもは大人の鏡です。大人の価値観が変わらない限りいじめは起こり、また無くなることはないでしょう。そして、その大人価値観を変える指針となるのが法律なではいでしょうか。多様な人、多様な学び、多様な生き方を受け入れ、認め合う社会を目指す日本であってほしいと切に願おります。

ちっぽけな母親の願いです。どうかよろしくお願ひいたします。

また、娘は今、アルバイトから就職に向けて頑張っております。

■土屋聰子（東京都・フリースクールに通う子どもの親）

私の息子は、小学五年生のとき、いじめが原因で学校に行けなくなりました。私は必死の思いで情報を求めて「フリースクール東京シューレ」の存在を知りました。

学校で深く傷付いた息子は、すぐには、フリースクールに通えるようにはならず、五年間の家での休養を経て、この四月からやっと、東京シューレの高校コースに通えるようになりました。不登校だった五年間、学校に通えていたら本来学べたであろう事、経験出来たであろう事が息子には出来ませんでしたが、今、フリースクールでゆっくりと学びの時間をとりもどしています。

フリースクールに来ている子どもたちは、みな「学校」というレールから外されて、暗闇の中、「誰も自分を助けてはくれない。」という絶望を味わい、やつとの思いで、フリースクールにたどり着いたのだと思います。子どもやその親たちは、子どもの命を守るために、子どもが自分という存在を大切にするために、フリースクールを選んだのです。それなのに今まで「フリースクールに通っている」と言うと、世間の人たちからは理解されず、認めてもらえず、悲しくつらい思いをしてきました。私達は何も悪い事はしていないのに、何故こんな「引け目」を感じなくてはならないのだろうと、思っていました。

昨年、首相自らがフリースクールを視察して下さった事により、フリースクールの存在を肯定的に捉えていただいたことは、子どもにとっても親にとってもとても嬉しく、勇気づけられる出来事でした。

フリースクールに来る子どもたちは、不登校になった年齢も様々です。学習面でも心理面でも一人一人に合わせて、きめ細かい対応が必要となってきます。

また経済的にも、もっと安心してフリースクールに通えるようになれば、今よりもっと多くの不登校の子どもたちがフリースクールを選択する事が出来て、ここで自信を取り戻していく様になると思います。

一人でも多くの不登校の子どもたちの心が救われることを願っています。

「学校」が合う子どもは、「学校」に行って学べば良いと思います。でも、学校に行けなくなったりした子どもや学校よりもフリースクールでの学びのほうが自分には合っていると思う子どもは、フリースクールに自信を持って通えるようになる日が早くおとずれるといいと思います。

子どもたちが、安心して自己肯定感を持ちながら、楽しくフリースクールに通うことができますように、今後ともご支援の程、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

■牧野恵（埼玉県・ホームエデュケーション家庭の親）

埼玉県在住です。娘二人が不登校、ホームエデュケーションで育ちました。
学校からの働きかけが大変だったのは、主に二女のほうです。小学生の時です。
今年で21歳になる二女は小学校一年から学校に行っていません。

進級前の三学期になると校長先生から、「このままでは進級させるわけにはいかない」と、一年生から校長が退職する五年生まで、毎年言われ続けました。
校長の裁量権が行使される可能性があることから、とても怖く感じられました。

学期ごとに通知表などを受け取る、お返しをするため親が学校に出かけて、担任に娘の様子を話していました。

校長とは進級前の三学期末に会うことがほとんどでした。

校長からは、娘さんの姿を見ていながら信用できない。

責任があるから、このままでは進級させられない。

直接会えないのなら、自転車の後ろに娘さんを乗せて学校のそばを通ってくれ、その際は通る時間を連絡してくれ。何か娘さんのつくったものを見せてほしい…

ざっと覚えているだけですが、進級前に言われたことのいくつかです。

できることはやってきましたが、それでも信用できないと言われるのはこたえました。

ちょうど、ネグレクトという言葉がたびたび聞かれるようになった頃で、ネグレクトということもありますからとさらりと言わされたときは、つらく、情けない気持ちでした。

自転車で通ることも、学校と距離を置きたい娘にはまず無理なことでした。

あまり外出もしたがらない時期でしたし、通る時間を連絡と簡単に言うけれど、連絡するとき、出かけるための準備など、いつもと違う空気から娘は何を感じるのか。

学校へ行かない子どもたちは、驚くほど、何気ないことからでも学校とのつながりを見い出します。

子どもが健やかに育つために、その子が安心して育つことができる環境は必須だと思われます。

学校に行かないで家で育つ子どもは、家が安心して過ごせる場でなくてはならないでしょう。

娘にとって家を安心できる場所にしたかった。そのためには不自然な行動は避けたかったです。

説明しましたが、わかってもらえたかは不明です。

当時はパソコンを使って絵を書くことを好んでいたので、パソコンで書いた絵を提出したことがありました。

その時に校長から言わされたことは、こどもが書いたにしては、うますぎる。こんな印刷物では本当に本人が書いたのか、わからないということでした。

いろいろありましたが、進級に関してまず最初は、進級できないので何かをしてほしいと言われ、それをできてもできなくても、とりあえず一旦受け止めて、こちらが何かしら応えれば、その次は、あれは何だったの？と思うくらい口口っと態度が一変して、大丈夫ですよ、進級させますよ、と笑顔で言われるのが毎回の流れでした。

小学校から離れて久しい今、振り返ると、進級させないというよりも、すんなりとは進級させないというようなおどかしに近いものを、毎年校長から感じてきました。

客観視が難しかった当時は、常に落ち着かない、怯えた気持ちの入り混じる五年間でした。進級が決まると、やっと一山越えたという達成感がありました。

進級の時期は、とても疲れたし、憂鬱でした。

その時期ではなくても、またあのやり取りが続くのかと、常に心の隅に巣食っていました。今でも思い出すと嫌な気持ちになります。

しばらくは小学校のそばを通れませんでした。

■置田ゆうすけ (東京都 サドベリースクールに通う子ども)

僕は子どもにいろんな居場所の選択肢があるといいなと思います。僕はサドベリースクールを選んだけれど、他の子も自分のスタイルにあった学校を選べるのがいいと思う。ただ、こういうスクールが当たり前になるには、学費を下げられるといいと思います。

親は気にしなくていいと言ってくれているけれど、やはり負担は負担だと思うし。なので、私立の学校のように補助が出たら親も行きたい子も助かると思います。ぼく自身もそうだけど、ぼく自身もそうだけど、僕の周りの子や、今こういったスクールに通っている年少の子らのためにも、こういった法律が必要だと思います。

■松田敏明 (東京都 サドベリースクールに子どもが通う保護者)

私自身スクールの経営に参加していますが、その中で公的な支援がないことで経営が不安定になりやすい現状があります。

保護者への経済的負担や働く人達への負担が増えています。選べるべき子どもの教育の選択肢が減っており、子どもが望む場を与えられたら良いなと思っていても与えられません。

また家族はいいなと思っていても周りの人には伝わりづらい状況があります。法律の信用部分での後押しがあれば、子どもが行きたい学びの場が信頼され、理解されやすいと思います。子どもの選択肢が増えていくことが、日本の社会の多様性にもつながっていくと思います。

色々な学びの場の紹介

未来は選べる！

このページからは、現在日本にある一般的な学校とは違った教育方法や学びの場を紹介していきます。

世界にはたくさんの教育方法があり、その中で親と子は自分たちに合った教育を選べるようになっています。

ここでは紙面の関係上、7つの学びの場を紹介し、その学びの場を実践しているスクールや居場所を取り上げています。

日本にもこの他にたくさんの教育方法や学びの場があります。



フリースクール

不登校の子どもの急増を背景に 1980 年代半ばから、親・市民・教育関係者によって誕生した学校外の居場所・学び場です。フリースクールに通う日数を小中学校の出席日数にカウントしたり、通学定期券を使い通うことが 20 年前より可能となりました。約 70 校がつながる全国ネットワークも活発に活動しています。
►NPO 法人フリースクール全国ネットワーク <http://www.freeschoolnetwork.jp>

東京シユーレ <http://www.shure.or.jp/>

日本のフリースクールの草分けの一つであり、現在、東京都北区、新宿区、千葉県柏市の 3 つのスペースに、6 歳～ 22 歳の子ども・若者が合わせて 100 人余りが通っています。

月～金朝 10 時～夕方 5 時 30 分までの開室で、子ども一人ひとりの在り方、興味・関心を大切に、多様な学びや活動を展開しています。毎週 1 回ミーティングが開かれ、プログラムやイベント、ルールその他何でも話し合い子どもたちで創っていきます。学習、料理、バンド、スポーツ、ダンスなど日常的な活動や、映画制作、ログハウスづくり、アラスカ旅行など大きな取り組みまで、やりたいことを通して成長していきます。

2012 年より高卒資格取得も可能となりました。



シユタイナー教育

子どもが成長段階に応じて、その時期に必要なものを喜びをもって学べるようにデザインされた学校。芸術としての教育、エポック授業、手紙と詩による通信簿、体験を通した学び等を重視。世界に約 1000 校、日本では数校に 1000 名近くの子どもが通っています。

NPO 法人京田辺シユタイナー学校 <http://ktsg.jp>

2001 年創設。小学 1 年生から高校 3 年生まで 12 学年の 250 余名が通う。N P O 法人立て義務教育段階の全日制の学び場として、国内で最大規模。喜びを持って生きること。自ら考え、自分の行動に責任をもち、社会の力となっていける人。自分らしく、生き生きと世界に関わっていける人。そのような「真に自由な人間」に子どもたちが育つことを願う。

市民の手づくりであるため、経済面での校地校舎など設置基準のハードルが高く、一条校未認可。教育面では定評があり、2010 年、ユネスコスクール加盟認可。



サドベリー教育

自由が与えられた子は、自分の気持ちを感じ、自らやりたいことを発見し、仲間を見つけ、人との関わり方を学び、責任感を育みます。社会の良き一員となり、その子にとって幸せな人生を送ることを応援する場所。それがサドベリースクールです。

►デモクラティックスクール総合情報サイト <http://democratic-school.net/>

一般財団法人東京サドベリースクール <http://tokyosudbury.com/>

『人は「本当にやりたい」「必要だ」と感じたときに一番良く学ぶ』

この考え方のもと、サドベリースクールでは大人が決めた授業や テストをなくし、生徒一人一人が自分にとって必要な時に必要な事を学ぶということを信頼し見守っています。

やりたい事ができる自由と、他人を尊重する社会性が調和され、また生徒にスタッフの人選や学校運営への参加など、あらゆる事に大人と対等な一票の権利が与えられており、その中で生徒は自分の気持ちをじっくり見つめ、主体的に行動し、人と対話しながら大好きな事を見つけています。



フレネ教育

セレスタン・フレネ（1896～1966）が1920年代に始めた、「子どもの生活、興味、自由な表現」から出発し、印刷機や様々な道具、手仕事を導入して芸術的表現、知的学習、個別教育、協同学習、協同的人格の育成を図る教育方法です。

箕面こどもの森学園

<http://homepage3.nifty.com/kodomono-mori/>

子ども一人ひとりの個性を尊重し、知性・感情・創造性をのびやかに育てるオルタナティブ・スクール（小学校）です。子どもの興味・関心を学習の中心に置き、子ども自身の生活から学習を組み立てるというフレネの教育の考え方と方法を取り入れ、子どもの主体性・自律性を促進する教育を行っています。



インターナショナルスクール

インターナショナルスクールは、日本に在住する外国籍の児童のための教育施設（幼稚園・小学校・中学校・高校）として設立、発展してきたと言われています。学校教育法に定める学校ではなく、各種学校に分類されています。

NPO 法人インターナショナルセカンダリースクール

(ISS: International Secondary School) <http://www.isstokyo.org>

ISSは、少人数での丁寧な教育が適した個性豊かな生徒達（G6-G12）が通う英語で学ぶインターナショナルスクールで、現在20か国以上、約40名の生徒が学んでいます。生徒の中には、学習障害や識字障害等の軽度発達障害、言語能力不足、社会性の問題等を抱える生徒もありますが、各々の特性に合わせた専門的な指導を行うことで不足する能力のスキルアップを図り、一方で得意な分野の能力はさらに成長させ、また小規模なクラスで仲間や教師たちとの家族のような触れ合いを通じて自信を取り戻し、国内外の様々な大学・専門学校に巣立って行っています。



多様な教育機会確保法(仮称)に期待すること

期待すること その①

自分に合う学び場を選べるようになる

これまで…

学校になじめなくても、がまんして学校に行っていた。



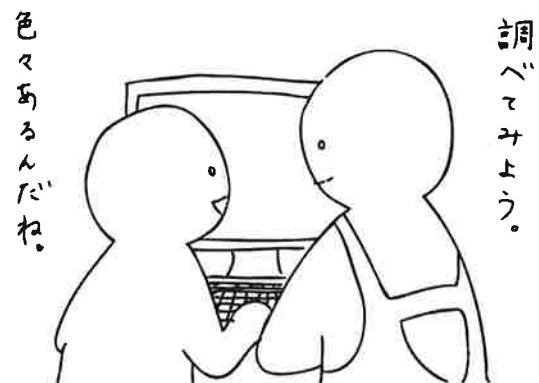
これまで…

不登校になることも。



実現したら…

自分に合った方法を考えられる。



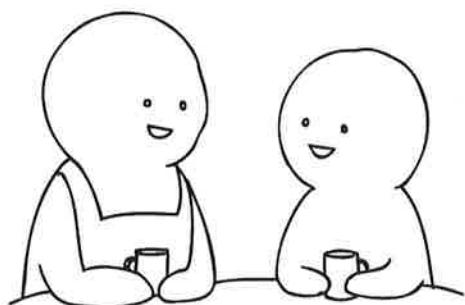
多様な学び場の例



実現したら…

いろいろな道があるので、
追いつめられない。

そうね。



期待すること その②

財政面の変化

これまで…

家庭の負担が大きい。



実現したら…

家庭の費用負担が減る。



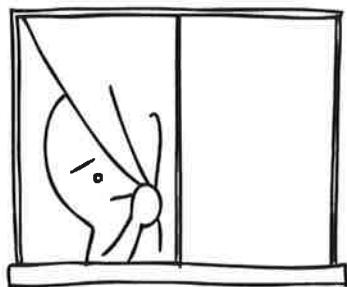
期待すること その③

学校に行っていない子どもの変化

これまで…

人の目が気になる・外に出にくく

へんに思われるだらうレ…



誰かに会ったらいやだな…

これまで…

自己否定感が強くなる。

将来が不安…



学校に行けない自分は
たりだ…

実現したら…

気持ちが安定→自己肯定感



実現したら…

色々なことに取り組みやすい

今日は何をしようかな!



期待すること その④

学校の変化

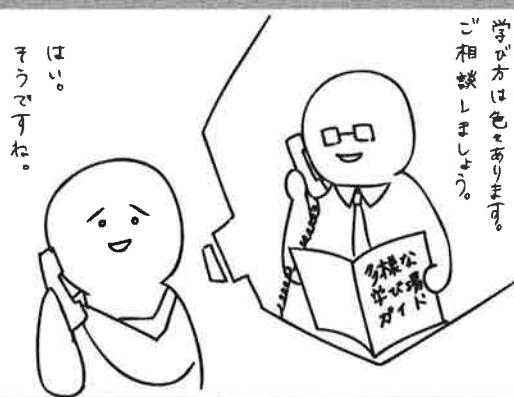
これまで…

先生「学校に来なさい」



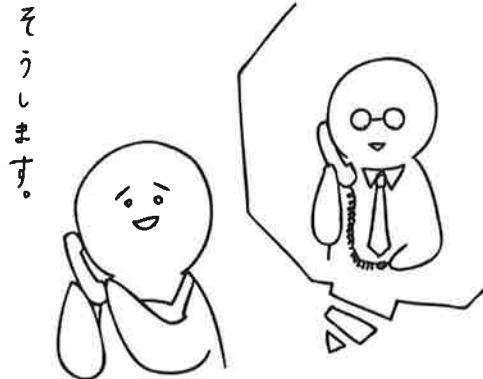
実現したら…

先生「学びは学校だけではありません」



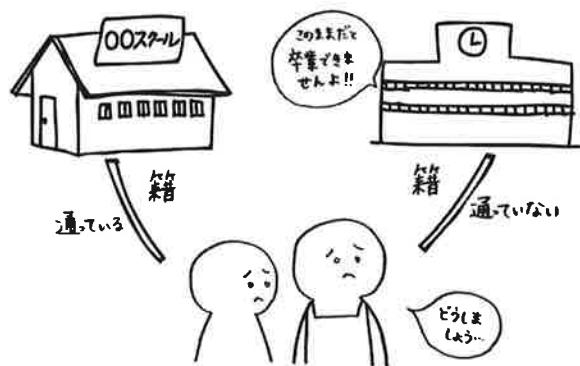
実現したら…

先生「休むことも大事ですよ」



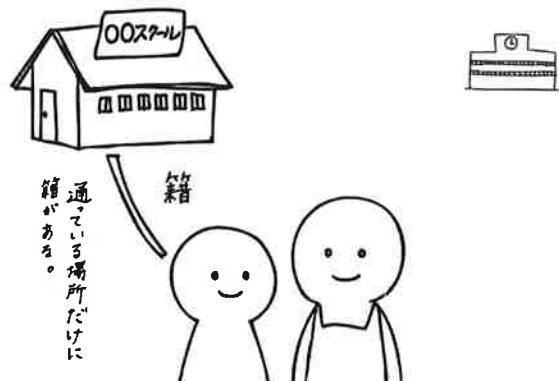
これまで…

二重籍の問題



実現したら…

二重籍の問題の解消



まとめ

多様法が社会を変える

これまで…

不登校はよくないという風潮



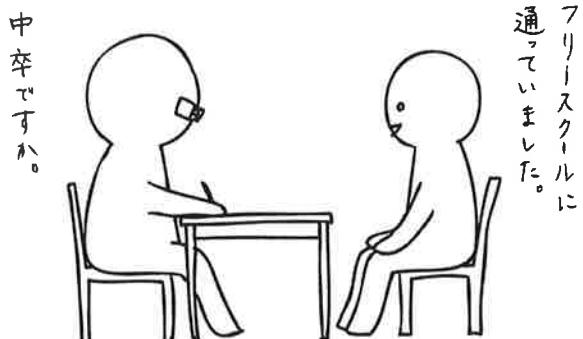
実現したら…

多様な価値観・人生観



これまで…

進学や就職で不利になることも。



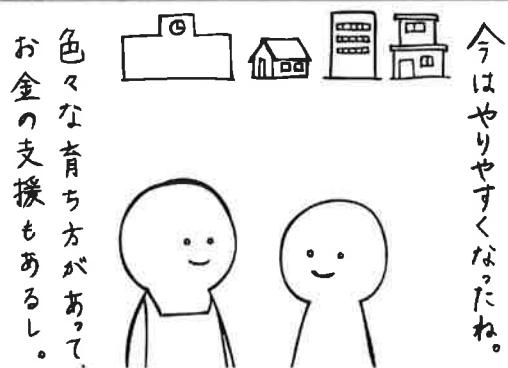
実現したら…

学歴だけではない価値観



実現したら…

子どもにも親にとっても、安心な社会



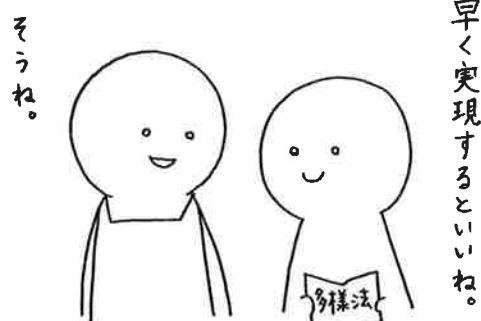
社会のしくみが変わることで

多様な学び・育ちを選びやすくなる。



子ども達が自分らしく、
学び、成長できる社会に。

多様な教育機会確保法



多様な教育機会確保法（仮称）制定を目指す フリースクール等院内集会

主催：NPO 法人フリースクール全国ネットワーク
多様な学び保障法を実現する会

(共同事務所)

〒114-0021 東京都北区岸町 1-9-19
TEL&FAX 03-5924-0525

E-mail info@freeschoolnetwork.jp (フリースクール全国ネットワーク)
ae@aejapan.org (多様な学び保障法を実現する会)

URL www.freeschoolnetwork.jp/
www.aejapan.org/